

佳頼 と妹

近鉄新祝園駅急行停車25周年記念事業実行委員会

近鉄新祝園駅
急行停車二十五周年記念

近鉄新祝園駅急行停車25周年に寄せて

語り継ぐべき、

あの日の記憶と、町の大きな財産

私は昭和49年(1974年)3月末まで近鉄電車の運転士として勤務し、4月から精華町の消防職員として新たな道を歩み始めました。

翌昭和50年4月17日午後3時半ごろ、私が受付勤務中に「電車が立って転覆した」との緊迫した119番通報が入りました。急いで現場に駆けつけたところ、天理発京都行きの急行列車(4両編成)が祝園5号踏切で乗用車と衝突し脱線。1両目が線路を外れ、西側に90度倒れて現在のJR学研都市線の線路をひん曲げ、2両目がそれに乗りかかっているという、想像を絶する大事故でした。



実行委員会会長
浅田 清隆

我々消防と警察は、割れたフロントガラスから乗客の救護・非難誘導にあたりました。通信回線がパンクするほどの状況でしたが、付近住民の方々の機転により、当時国鉄の列車を事故現場手前で止めていただき、二次災害を防げたこと、また、精華病院をはじめとする関係各位には大変お世話になりました。

特に感謝したいのは、当時の国鉄(JR)の二次災害防止に貢献して下さった付近住民の方々の迅速な判断と、負傷者以外の方が町立体育館へ速やかに避難し、大きな混乱を回避できたことです。この時、町と住民が一体となった対応ができたことは、今も誇りです。

友情と熱意が実らせた「急行停車」という夢

そして、この大事故の復旧作業に駆けつけ、徹夜で尽力して下さったのが、当時町議会議員でいらしゃった大崎鉄平氏でした。氏の日本サルベージ社の大型クレーン2台による復旧作業のおかげで、翌朝の始発が運行でき、近鉄からも深く感謝されました。

この復旧作業を通じて深まった、大崎氏と近鉄との人間的な絆が、後に精華町に大きな実りをもたらします。

平成元年(1989年)、大崎氏が町長に立候補される際、「近鉄新祝園駅に急行を止める」ことを公約に掲げられました。当時の新祝園駅の乗降客は700人前後と、急行停車は困難を極める課題でしたが、精華町は学研都市の中核都市として大きく生まれ変わろうとしている時期でした。

大崎町長は、あの事故での「友情」と「熱い思い」を胸に近鉄との交渉に臨まれ、ついに25年前の平成12年(2000年)3月15日、近鉄新祝園駅への急行停車が実現しました。

この「急行停車」は、単なる町の利便性の向上に留まらず、町の将来への大きな可能性を開き、精華町にとってかけがえのない、大きな大きな財産となりました。

近鉄新祝園駅の急行停車25周年、

誠におめでとうございます。



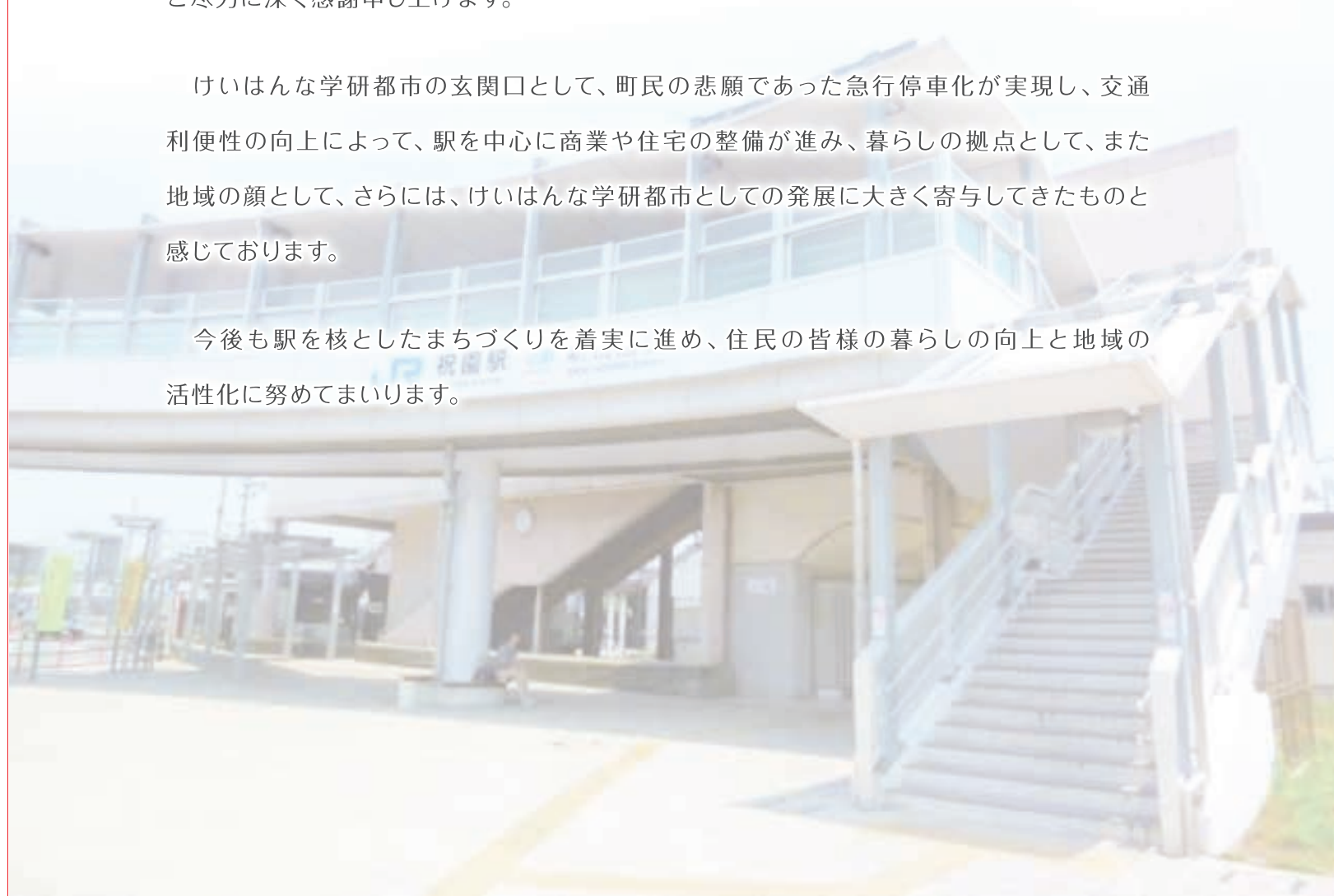
精華町長
杉浦 正省

近鉄新祝園駅の急行停車25周年、誠におめでとうございます。

本年は、町制施行70周年を迎える節目の年でもあり、関係各位並びに町民の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。

けいはんな学研都市の玄関口として、町民の悲願であった急行停車化が実現し、交通便利性の向上によって、駅を中心に商業や住宅の整備が進み、暮らしの拠点として、また地域の顔として、さらには、けいはんな学研都市としての発展に大きく寄与してきたものと感じております。

今後も駅を核としたまちづくりを着実に進め、住民の皆様様の暮らしの向上と地域の活性化に努めてまいります。



新祝園駅の急行停車25周年を
迎えられましたことを
心よりお慶び申し上げます。



近畿日本鉄道株式会社
代表取締役社長
原 恭

新祝園駅の急行停車25周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

これまでの振り返りますと、新祝園駅は1994年に橋上駅舎化、1996年には駅に待避線を設置するとともに、ホームを拡幅いたしました。

そして、2000年3月15日に近鉄奈良駅と京都市営地下鉄国際会館駅を結ぶ相互直通急行の運転開始にあわせて新祝園駅が急行停車駅となりました。

新祝園駅が学研都市の玄関口としての役割を果たし、地域の発展に大きく寄与してきたことは私どもにとっても誇りでございます。

今後も安全・安心・快適なサービスの提供に努めるとともに、地域のさらなる発展に寄与できるよう、引き続き努力してまいります。

皆さまのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



近鉄新祝園駅急行停車25周年 実行委員会 委員名簿

会 長：浅田 清隆
副会長：喜多 俊夫
副会長：桃井 秀幸
会 計：喜多 恒巳
幹 事：森本 忠彦
幹 事：吉田 一雄
幹 事：森田 英照
幹 事：森本 真一郎
顧 問：木村 要

